

実施主体役のグループ

朽山, 増田, 土, 出口, 高瀬, 稲垣,
越智, 柴田, 竹内, 日置, 市川

Safety Case の5W1H

Why

1. 実施者の自信の構築
2. 安全性及び安全への確信についての情報交換
3. 利害関係者の安心





Safety Case の5W1H

Who

- ・NUMOが作成する.

研究機関も応分の責任をとる体制が必要



Safety Case の5W1H

To Whom+When

- ・ 規制者の規制要件の検討の際(初期条件)
- ・ 規制者に各ステップの許認可及び確認の要求をする際
- ・ 政策決定時に政策決定者(資源エネルギー庁, 原子力委員会, 地方自治体)の確信を与えるため
- ・ 公衆(マスコミ, 慎重派を含む), 地域住民
- ・ 国際世論

Safety Case の5W1H

What

SCはNEAで規定する諸項目に以下の事項を加える

- NUMOの基本的立場と戦略, 経営基盤
NUMOの信頼性醸成のため
- 日本の地質条件
- 閉鎖前(調査中, 建設・操業中)の安全性
- 修復技術, 回収技術
- モニタリング技術
- 背景情報(地層処分の必要性と他の代替エネルギーとの比較など)

Safety Case の5W1H

How

- 研究機関との連携をとって作成する.
追跡性をNUMO RMS + JAEA KMSで確保
- 対象者別に提示法を考える.
CoolRepスタイルの可能性